

秋田市教育委員会
会 議 録

平成 2 5 年 1 2 月定例会

秋田市教育委員会平成25年12月定例会会議録

1 日 時 平成25年12月26日(木)
午後3時30分～午後4時50分

2 場 所 教育委員会室

3 出席委員 委員長
教育委員(委員長職務代行者)
教育委員
教育委員
教育委員(教育長)

4 出席職員 教育次長
教育次長
総務課長
総務課参事
学校教育課長
学校教育課教職員室長
教育研究所長
スポーツ振興課長
文化振興室長
生涯学習室長
総務課長補佐
総務課副参事
学事課長補佐
学校教育課長補佐
生涯学習室長補佐
総務課主席主査
学事課主席主査
学事課主席主査
教職員室主席主査
生涯学習室主席主査
総務課主査
総務課主査
教職員室主査
教育研究所主査
総務課主事

5 議 題

【付議案件】

- (1) 議案第30号 職員の人事について承認を求める件

【協議事項】

- (1) 平成25年度秋田市教育委員学校訪問の総括について
- (2) 平成26年度全国学力・学習状況調査に関する件

【教育長等の報告】

- (1) 平成25年度「新成人のつどい」の警備について

6 議 事 午後3時30分開会

【委員再任の報告】

総務課長が本日任期満了となる委員の再任について、秋田市議会11月定例会で同意されたことを報告した。

【平成25年11月定例会会議録の承認】

平成25年11月定例会会議録について、異議がないため承認された。

【会議録署名委員の指名】

進藤委員長が今回会議録の署名委員として委員2名を指名した。

【付議案件】

議案第30号 職員の人事について承認を求める件

委員長 議案第30号「職員の人事について承認を求める件」について、事務局から説明願う。

総務課長 (資料に基づき説明)

※ 議案第30号については、全員賛成により承認された。

【協議事項】

(1) 平成25年度秋田市教育委員学校訪問の総括について

委員長 協議事項(1)について、事務局から説明願う。

教職員室長 (資料に基づき説明)

学校訪問に関する感想や意見をいただきたい。①訪問日程についてどうであったか。②1日の日程として、校長の経営説明、授業参観を含めた校内一巡、教職員との懇談という進め方がどうであったか。中でも、テーマを決めずにフリートーキングとした教職員との懇談についてはどうであったか。③今年度は社会教育施設訪問として千秋美術館を訪問したが、来年度訪問を希望する施設があるか。

教育委員の意見・感想を来年度以降の学校訪問にできるだけ反映させたい。

委員 ①の訪問日程については、昨年にと比べると7月、8月に訪問日程が入ったことから日程が集中しなくなったが、運動会の時期などに訪問してみたい。学校側が忙しいので実現するかは分からないが、学校の様々な活動を見てみたい。

②の学校訪問の進め方については、特に不便を感じない。フリートーキングについては、学校訪問の直前で起きた問題などをその場で話すことができるなど、時宜に応じた様々な話ができていと思う。

③の訪問を希望する施設については、高齢者が活動している公民館などの生涯学習施設も選択肢としてあるのではないか。

委員 ①の訪問日程については、学校行事や地域行事などとの兼ね合いがあるので、日程調整にかなり苦労されていると思うが、学校訪問は教育委員の重要な業務の一つな

ので、余裕のある日程を組んでほしい。

②の学校訪問の進め方については、学校の規模によって、十分な時間をとって授業を見られるケースが少ない場合がある。小・中規模校の場合は、ある程度授業のやりとりや子どもの反応を含めて見られる。一方、大規模校では、教育委員がそれぞれ分かれて各授業を見ているが、極めて短時間である。忙しく回るよりは、ある程度見る授業を絞ってほしい。

フリートーキングについては、時宜的なものや地域が抱える問題がそれぞれあるので、テーマを決めて議論するよりは柔軟な対応ができる点から、当面はフリートーキングが望ましいと思う。私たちも様々な課題や現場の声を聞きたい。

③の訪問を希望する施設だが、市営運動施設の訪問を希望する。2020年の東京オリンピックに向けて時間があるようでないところもある。また、現在秋田にはプロチームが3つある。試合観戦の際は、運動施設を外から見ているが、施設内のシャワー施設や会議室の整備状況なども重要である。国立競技場には秩父宮記念スポーツ博物館が併設されていたり、様々な競技のブロンズ像などがある。施設内の充実度も、今後県外から人を呼ぶ際には大きな意味を持ってくると思う。時間がない場合は、八橋運動公園の施設だけでも見てみたい。

委員

①の訪問日程については、7月、8月に3回訪問があり日程が集中しなくなったが、11月の日程が非常に厳しかったので、もう少し改善してほしい。今回の学校訪問は、午前又は午後のみ日程が3回組まれていたので良かった。このような形であればもう少し訪問期間が長くなっても良いと思う。しかし、午前又は午後のみ訪問の場合は給食が食べられないので少し残念である。給食を食べた感想も話したいので、午前又は午後のみの日

程の場合も、給食を食べてから解散としてほしい。

②の学校訪問の進め方については、基本的には現状のとおりで良いと思う。校長の学校説明について、資料に書き加えられなかった話が出てくれば、その学校に対する様々な点に思いを巡らすことができるのではないかとと思う。資料は基本情報として事前に頭に入れられるので、学校訪問の際はそれ以外のことを教えてほしい。大規模校では授業を見る時間が区切られているが、次に訪れる授業のタイミングを図るなど、大変良く考えてプログラムを決めているように思う。学校側は教育委員の訪問を心待ちにして努力しているように思うが、自然な姿をゆっくり見ることが本来の姿であると思う。大規模校であっても5、6分程度は一つの授業を参観し、子どものノートや表情を見たり、先生の話の仕方をじっくり見たい。必ずしも全ての教室を見ることができなくても良いことを学校に伝えてほしい。

フリートーキングについては、どの学校でも積極的な意見交換が出来てとても良かった。学校の実情や校長の経営手腕、教諭とのコミュニケーションの仕方なども分かりやすく垣間見ることができたので、非常に満足している。

③の訪問を希望する施設だが、今年訪問した千秋美術館に関しては、目から鱗が落ちる場所をたくさん見せてもらった。そのような場所があることで美術館が成り立っていることがわかり、非常に勉強になった。今まで行った施設の中で一番印象深い。各施設が催す行事期間中に訪問することで、市民と教育委員会の関わり方を垣間見ることができるのではないかとと思うので、できればお願いしたい。

委員

今年度は、教育委員会に関する突発的な事案が発生したため、4、5カ所訪問できなかったことが残念だった。

①の訪問日程については、学校の行事など、様々な条件の中でどうしても日程が重なってしまうと思う。授業参観では、時間をかけて見るためには自由に参観できることが一番良いが、学校側は全ての先生の授業を見てほしいという思いがあり、参観時間を決めている。そのバランスをどのようにとっていくのか考えていかなければならないと思う。

フリートーキングについては、以前と比べると先生方もフリートーキングに慣れてきたという感じがする。以前はフリートーキングといっても、先生方が一生懸命説明を行い、委員が質問する時間がほとんどないこともあったと聞いている。そのような点を考えると、現在のフリートーキング形式はかなり良い。次の日程もあるのでなかなか難しいとは思いますが、もう少し時間があれば先生とも様々な話ができるのではないかと感じた。

委員長

学校訪問については、10月に参加できず、申し訳なく思っている。行ってみたいと思っていた学校に行けず、非常に残念であった。

①の訪問日程については、昨年よりも日程が集中しなくなったことで行きやすかった。午前又は午後のみの日程もあり、気持ちがゆったりとして良かった。今後も半日日程が何日かあってもいいのではないか。

②の学校訪問の進め方については、現在の状況がベストであると思う。経営説明を聞き、その説明を念頭に学校内を廻り、子どもたちの学習活動を参観し、先生とフリートーキングを行うという流れは、非常にスムーズで良いと思う。資料を事前に提供してもらうことは、訪問する学校の重点ポイントを理解した上で訪問できるので良いと思う。

しかし、学校評価の資料について、校長が替わった場合はやむを得ないが、それぞれの学校の経営の重点や課

題に対する取組状況や達成度がどのくらいであるかが分かる項目立てとなり、この学校評価の重点を基に経営説明を聞ければ良いと思う。評価項目が教育委員会から提案されているものであれば一律となることはやむを得ないが、学校評価の項目や柱立てが一律で良いのかという思いはある。

フリートーキングについては、出席者がその時間が空いている先生などに限られたが、皆さんの声を聞くことができ、良かったと思う。また、先生それぞれの立場から話を聞かせてもらえることは良いと思う。大規模校については、教室の中で子どもたちの学習活動を見る時間が1、2分前後となると、非常に慌ただしく、落ち着いて子どものそばで見ていることができない。改善したいと思うが、いくつかの授業を選んで参観することについて先生はどのように思うだろうか。ある先生の授業は教育委員が参観したが、自分の授業は見てもらっていないと思われたりするのではないか。また、どの授業を参観するかを、誰が決めるのかということにもなるので、やはり全ての授業を見せてもらうのが良いかもしれない。今年は、急に自習になったクラスで教頭先生の授業を見せてもらったりするなど、普段の様子も垣間見えて良かったと思う。

③の訪問を希望する施設だが、2020年のオリンピックもあるが、来年は国民文化祭もある。今年は様々な方と接する機会があり、その中で文化活動を一生懸命やっている方が多くいることが分かった。国民文化祭に直接繋がらないにしても、公民館やコミュニティセンターなど、日常の生活の中で一生懸命活動している方やグループがたくさんあるので、その活動に触れてみたい。

委員

学校を訪問すると地域の事情がよく分かる。学校は地域を反映しているし、地域自体が学校の在り方を分かっ

ている。学校訪問はかなり貴重な時間であると感じた。いじめ・不登校については、今回様々な話を聞いたが、各学校が学校全体でチームとして取り組んでいる姿が大変よく分かった。市教委の取り組みがかなり浸透しているのではないかと感じ取れたので、その努力はこれからも続けてほしい。防災教育については、訓練を工夫したり、子どもの引き取りの訓練を実施したりしていた。地域の地形や保護者の対応などを先生が頭の中に入れつつ、努力して訓練をしていることがよく分かった。しかし、災害は時の経過とともに風化することがあるので、形式的にならないようにこれからも続けてほしい。幼保と小学校の連携、小中学校の連携についても、それぞれの地域事情がある中で留意してやっているが、地域によって温度差があるような面もあった。地域ごとに異なるため一概には言えないと思うが、連携の在り方について、市教委で指針などがあるのか教えてほしい。学校訪問の前には、学校のホームページをできるだけ見ているが、各校が年々ホームページに力を入れているように感じた。地域の要望を敏感に受け止めているように思う。

学校訪問の日程についてだが、防災訓練の日に教育委員にも知らせないまま一緒に訓練をする機会があっても良いのではないかなと思う。サプライズを求めているわけではないが、肌身で様々なことを感じるかなと思うので、そういう機会があっても良いと思った。今回の学校訪問では、外部講師の授業が多くあった。東小学校ではN I E、高清水小学校ではお米マイスター、戸島小学校では国際教養大学の英語の授業を見せてもらった。授業を見ていると、子どもたちの関心の度合いや目の輝きがかなり違っていた。特に、お米マイスターの授業では、2時限を使った授業だったが子どもたちはよくやっていた感じがする。そのような機会を見ることができた

ので大変良かったと思う。

委員長

今年度の学校訪問をした中で、非常に良い方向に進んでいて、手ごたえを感じていることが4点ある。1点目は、授業改善が進んでいること。2点目はノート作りやノート指導に力が入り、家庭学習も含めて先生が頑張っていること。3点目は、学校内で子どもたちの声が響き、賑やかな状況で学習活動をしている場合でも、静かな状況の中であっても、学習活動をしている子どもたちが全員目指す方向に向かっていて、真剣なまなざしで学習活動に頑張っていること。4点目は、中学校の学校図書館が非常に明るく、素晴らしく変わってきていることである。

※ 協議事項(1)については、以上のとおり終了した。

(2) 平成26年度全国学力・学習状況調査に関する件

委員長

協議事項(2)について、事務局から説明願う。

教育研究所長

(資料に基づき説明)

委員長

協議のポイントがいくつかあるため、来年度の調査への参加について協議することとする。はじめに、質問はあるか。

各委員

(質問なし)

委員長

調査への参加について意見はあるか。

委員

参加しないという選択肢を考慮しなければならない事例や事案が今のところはないと思う。参加については現行のとおりで良いと思う。

委員

参加については今までどおり参加する方向で良いと思う。調査の目的は、児童生徒への教育指導の充実、学習状況の改善であるが、充実や改善に役立つ資料として、これまでも活用し、役立てているので、参加しないより

は参加することで良いと思う。

委員

参加しない理由がないので、参加するべきだと思う。
調査を基にして、次年度の課題の検証・改善などに非常に役に立っていると思う。

委員

今回の変更については、報道等でも大きく取り上げられて様々なことが言われているが、調査の目的や結果の活用はこれまでと同様であるということ、調査結果の取扱いに関する配慮事項と公表に大きな変更があったが、公表に関するこれまでの秋田市の対応等は矛盾しないということ、それから何よりも子どもたちの学力の状況を的確に把握して、授業改善にいかしていく点で非常に有効な調査であることを考えると、来年度もぜひ参加すべきと考えている。

委員長

学校訪問を含めた現状からすると、参加する方が良いと思う。結果が一人ひとりの子どもに還元され、学校全体で指導方法、授業の改善が進んでいると感じられる。家庭学習の充実、家庭との連携も良い方向にきているのではないかと思う。秋田市としても課題や改善のポイントを広く学校現場で活用できるように示しているので、良い方向にきているのではないかと思う。来年も参加することで良いと思う。

これまでの皆さんの意見を集約すると、来年度も本市として調査に参加するということによろしいか。

各委員

(異議なし)

委員長

次に、来年度の調査に参加することを前提に、教育委員会が各学校の結果を公表すること、また、各学校に対して結果の公表を求めることについて協議する。はじめに、質問はあるか。

各委員

(質問なし)

委員長

それでは、皆さんの意見を伺いたい。

委員

調査の目的が、学校の授業改善や子どもたちがどのよ

うに理解しているかを調査するという観点から、積極的に学校名を公表する必要はないと思う。子どもたちへの配慮が必要である。また、その成績や正答率が全国的に公表されるので、その数値だけが一人歩きして誤解を与える部分や曲解するような部分が出てくる可能性がある。リスクが高いと思われるので、趣旨に照らして考えると、公表しない方向の選択をしたい。

委員

学校への公表まで求める必要はないと思う。各学校への公表を求める場合の目的は、地域住民や保護者の知る権利と説明責任にあることも分かるが、各学校の教育成果の判定をするわけではないので、各学校の成績、結果の公表はあまり必要性がないと考えている。各学校の公表を求めることは、義務教育で児童・生徒が学校を選べない状況の中で、学校間の序列化が生まれ、自分が通う学校が他の学校より低いということになってしまうと、例えば、その学校の教師の教え方が悪いとなったりするなど、非常に弊害が大きいのではないかなと思う。結果の公表を求める場合の配慮事項はあるが、結果だけが一人歩きする状況が生じてしまうことは否めないところがあると感じている。学習とはテストの結果だけが学習ではないと思う。知、徳、体という中の一部であって、テストの結果だけが偏重される疑いがあるのではないかなと感じている。例えば、小学校6年生が1クラスしかない学校がある場合、その学校のクラスの点数が分かっちゃったり、発達障害の子どもがいた場合、クラスの成績が良くないことが明らかになってしまう。それがいじめや差別など、テストの結果公表による弊害も出てくることを予想されることを考えると、各学校の結果の公表は非常に手段としては弊害が大きいのではないかなと思うので、結果の公表は求めない方がよいのではないかなと思う。

委員

結果の公表は求めない方がよいのではないかなと思う。

この調査は、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行っているので、学校をランク付けするような公表は求める必要はないと思う。

委員

これまで文部科学省は実施要領の中で、学校別の結果公表は序列化の危険性があることや過度な競争を煽ることを危惧して、学校別正答率の公表を認めてこなかった。しかし、自治体の首長の要望や説明責任を理由にして、新聞記事によれば学校別の結果公表の解禁に踏み切ったとなっているが、文部科学省が示した今回の実施要領の配慮事項を見ると、序列化や過度な競争が生じることへの懸念が全くなくなったわけではないという思いが見られる。したがって、そのような懸念がなくなったわけではないということをおさえておく必要があると思う。配慮事項には、学校名と正答率だけの公表は認めていない。正答率で学校を順位付けすることも禁じているが、分析結果や今後の対応などを併せて公表したとしても、平均正答率という数値が出れば、その数値の持つ様々な意味合いや価値が削ぎ落とされて、数値のみが一人歩きしてしまう。学校評価をする指標のようなものという誤解がさらに助長されるのではないかとということが非常に懸念される。現在の社会状況の中で学校別の公表をすることは、リスクが大きいと考え、公表すべきではないと思っている。これまで本市でも十分に分析した結果を公表し、ホームページにも掲載しているので、責任は十分果たしていると考えている。今回の学校調査を見ると、ほとんどの学校で保護者や地域等に様々な形で自校の分析した傾向などを説明しているので、平均正答率を公表しなくても説明責任は十分に果たしているのではないと思う。教育委員会として学校別の数値を公表しないのに、学校に公表を求めることは、論理的に矛盾があるので、学校

に公表を求めることもしてはならないと思う。これまで
どおり各学校の校長の判断を尊重すべきと思っている。

委員長

学校名を明らかにした公表や学校への結果公表の指示
は必要ないと思う。本市がこれまでやってきた従来どお
りの対応や取組で良いと思う。本市の学校教育で子ども
たちに身に付けさせたい点は、自立と共生の力である。
この調査は、一部の学年の一部の教科で、その中の限ら
れた分野から出題された調査であることを考えると、結
果の数値が公表された時に、数値だけが一人歩きしてし
まう。数値だけが目に入るという危険性を伴い、序列化
に繋がる危険性が非常に大きく、文部科学省の会議等
でも、その懸念は拭い去られていない。結果のみ重視する
教育活動はないと思う。途中の過程も細やかに見て、手
助けしていく教師の姿があるのではないか。指導方法の
改善というのは、その中にもあると思うので、数値だけ
を公表することは非常に危険性が伴うと感じている。こ
れまでもやってきた結果の分析や改善の方策、ポイント
等をきめ細やかにしていくことは、結果を踏まえて教育
委員会が学校をサポートしていく姿が現れていると思う。
そのようなことを考えると、これまでやってきたことが
この調査の目的に沿った形で行われているのではないか
と思うのでこれで良いと思う。

以上、全員から意見をもらったが、調査への参加につ
いては参加すべきである。結果の公表については、公表
は行わず、従来どおり学校をサポートしていくというこ
とで教育委員会の総意としたいがよろしいか。

各委員

(異議なし)

※ 協議事項(2)については、以上のとおり終了した。

【教育長等の報告】

(1) 平成25年度「新成人のつどい」の警備について

生涯学習室長 (資料に基づき説明)

【その他、事務局から】

(1) 平成25年11月市議会定例会の審議状況について

総務課長 (教育産業委員会で審議された議案1件、報告3件について内容を報告)

学事課長補佐 (教育産業委員会で報告した雄和地域統合小学校について、資料に基づき報告)

委員 建設計画の計画所要室を見ると、職員室が見当たらないが、岩見三内小・中学校と同様に、小中学校が一緒の職員室となる予定なのか。

総務課参事 そのとおりである。

(2) 1月の教育委員会関連行事予定について

総務課長 (1月の行事予定について、資料に基づき報告)

(3) 幼保小の連携、小中連携における教育委員会の取組と学校訪問における学校評価について

学校教育課長 協議事項(1)「平成25年度秋田市教育委員学校訪問の総括について」の審議で質問のあった「幼保小の連携、小中連携における教育委員会の取組」について回答する。幼保小の連携については、各学校ごとや各ブロックで幼保小の連携に取り組んできた。現在、幼稚園教諭や保育士、小学校の教諭を含めたメンバーでスタートカリキュラムの作成のための委員会を行っている。来年度に向けて、その例を学校教育の重点の中で示したいと考えている。また、小中

連携については、平成１７年度から取り組んでいるが、基本的な考え方や実践例などを各校に紹介してその取組例を示しているとともに、毎年、学校教育の重点の中で取組のポイントを示して、周知を図っている。しかし、中学校区内の小学校の設置の状況や学校規模等によって、取り組む内容が異なるので、その状況に応じた小中連携の推進を行っているところである。

また、「学校評価について」意見があったが、これについて補足する。学校評価については、平成２０年度に秋田市の学校評価というガイドラインを教育委員会で示している。その中では、学習指導、生徒指導といった項目は、各校の共通項目として評価してもらっている。その他に項目を設けることについては、各校の特色を出してもらうようにしている。また、共通項目であっても評価項目なので、評価内容は各校が立てた学校の目標や重点に照らして内容を設けている。

【その他、今後の日程についての報告】

総務課長補佐　教育委員会１月定例会は、１月２３日(木)午後３時３０分からを予定している。

午後４時５０分閉会

以　上